

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 4 月調査結果 - -

(平成 1 5 年 5 月 2 日)

調査期間：平成 1 5 年 4 月 1 8 日～ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 7 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 4 製造業 6 3 1 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 5 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3、7 8 4 4
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年4月調査結果のポイント】

景況は低水準で足踏み状態が続く

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（50.1）と同じ50.1となり、横ばいだった。

業種別の業況DIを見ると、サービスを除く4業種でマイナス幅が縮小したが、卸売を除く3業種の縮小幅はわずかであり、全産業合計の業況DIは横ばいとなった。全産業の水準は7カ月連続マイナス50台の低水準で推移しており、イラク戦争は早期終結したものの、中小企業の足元では、景気の見通しの不透明さと、不況の常態化による閉塞感が漂っている。景気の先行きについては、公共事業の縮小、株価の低迷、所得の減少等に伴う消費低迷と単価下落に加え、主にアジア諸国での新型肺炎（SARS）の流行など、悪化材料の増加を懸念する声が多く寄せられている。

【建設業】では、「4月からの公共工事の入札予定はまったく不明で、手持ち工事がある事業所以外、業界存亡の危機と感じている事業者が多い」（一般工事）、「公共工事、民間工事とも、受注量の不足、過当競争の激化により予断を許さない状況」（一般工事）と、公共工事減少の影響を訴える声が多く、また、「新築工事よりも既存建物の増改築工事が最近増えてきた」（一般工事）、「住宅のリフォームが増えているが電気工事はその一部のため工事金額が上がらないことから、個人を対象に組合でキャンペーンを行っている」（電気工事）、「受注量に片寄りが見られ、好不調がはっきり分かれている」（一般工事）といった声も寄せられている。

【製造業】では、「携帯電話、DVD、自動車関係が好調で、携帯・PHS用部品は増産傾向にある」（電気機器）、「中国向け繊維機械の輸出が好調」（その他金属製品）といった声があるものの、「仲間仕事と技術力で何とか乗り切っているが、散発的で短納期のものも多く、従業員の整理も限界」（金属加工機械）との声や、「スクラップなどの主原料が値上げされたまま高止まりしており、副資材も4月から値上げの見込みの一方、メーカーは値下げを要求しており採算が取れない」（鉄素形素材）と、引き続き仕入れコスト上昇の影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「野菜はキロ単価が上昇し売上増」（農畜産水産物）との指摘がある一方、「各業種とも依然売上不振のところが大半で、前年並み確保ができれば良い方」（各種商品）、「なかなか悪い状況から抜け出せない状態が続いている」（衣服、日用品）といった声も寄せられている。また、「低公害車への減税措置が3月で一部打ち切られたため駆け込み需要が発生し、4月はその反動で乗用車・RV車とも販売減」（自動車）といったコメントも寄せられている。

【小売業】では、「消費低迷下にもかかわらず、新商品などには購買意欲が刺激されるのか、動きがある」との声や、（百貨店）「軽自動車、小型車を中心に売上好調」（自動車）といった声があるものの、「集客はほぼ前年並みだが売上に結びつかず、同業種でも各個店で差がある」（商店街）、「長引く不況下で消費者の財布の紐は固く、大型量販店、近隣地域との競争で厳しい状況に置かれている」（商店街）と、引き続き単価下落、消費低迷との声も寄せられている。また、「食料品は昨年のBSE、食品不祥事問題に比べると売上増加している」（百貨店）、「連休中の食料品、玩具などの売上増に期待」（百貨店）といったコメントも寄せられている。

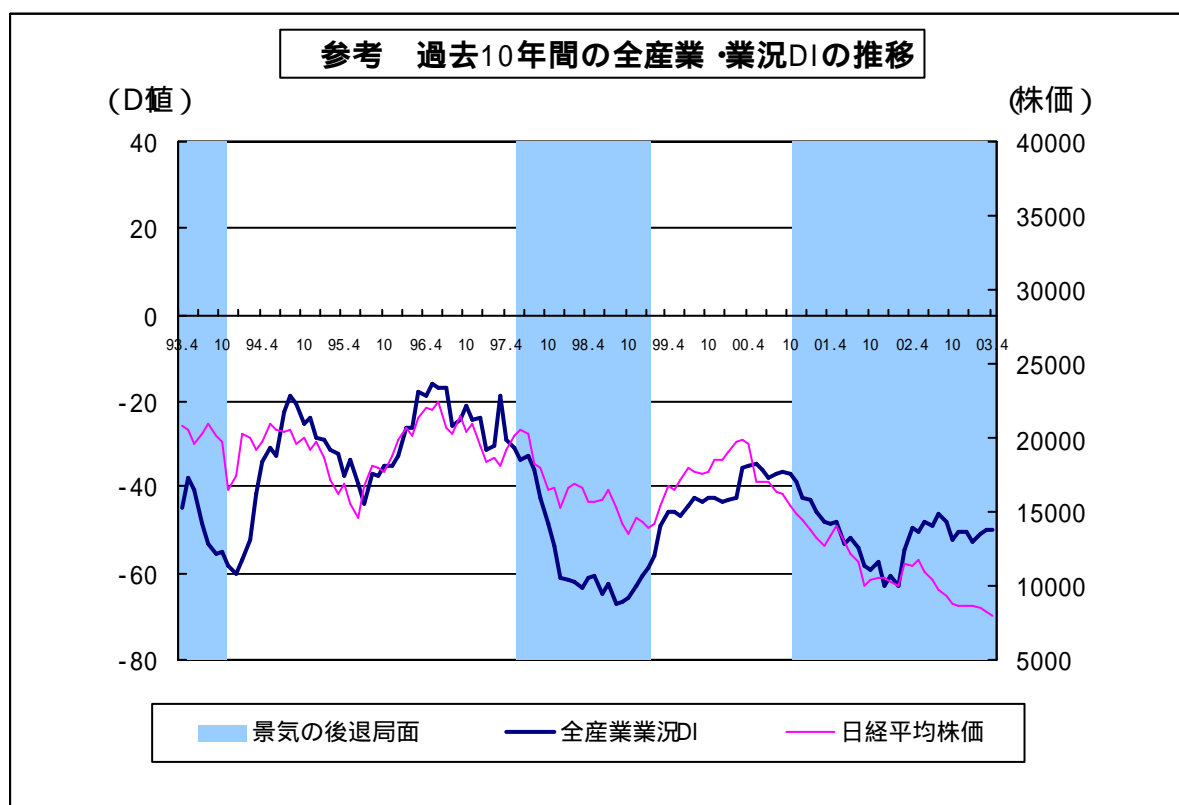
【サービス業】では、「イラク戦争で国内旅行へのシフトを期待したが予想に反し伸びず、予約も最悪」(旅館)、「今年のゴールデンウィークは大型連休でなく分散型なので、予約状況は低調」(旅館)、「花見シーズンでも仕出し弁当の注文が非常に少ない」(食堂、レストラン)、「一人当たりの売上が2～3割下がっているため、仕事量増加しているが、売上は変わらない」(食堂、レストラン)と、行楽、宴会需要の低迷、単価下落を訴える声が寄せられている。また、「倉庫引合い減少により、売上の先行き見通しも暗い」(その他サービス)、「4月は契約更新が多く、3月までの販売価格では契約できないところが目立つ」(ソフトウェア)といったコメントも寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は、全業種で前月水準より拡大したため、全産業合計の売上D I は2.0ポイント拡大して 45.1となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は、小売で前月水準より拡大し、サービスで横ばいとなったが、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D I は1.0ポイント縮小して 43.5となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 44.6と、昨年同時期の先行き見通し(39.1)と比べて下向いている。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の縮小、株価低迷の影響、消費低迷と単価下落、イラク戦争の余波とSARSの影響などに関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、業種別の業況DIが、サービスを除く4業種でマイナス幅が縮小したが、卸売を除く3業種の縮小幅はわずかであったため、前月水準（50.1）と同じ50.1となり、横ばいだった。

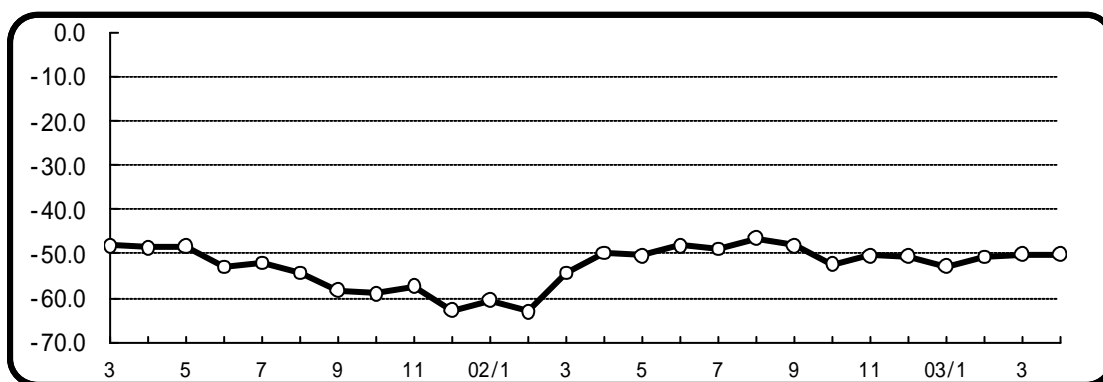
向こう3カ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が44.6と、昨年同時期の先行き見通し（39.1）と比べて下向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 11月	12月	15年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	50.4	50.5	52.8	50.7	50.1	50.1	44.6 (39.1)
建設	62.9	63.0	65.5	64.7	64.8	64.7	62.9 (56.4)
製造	46.7	47.7	49.1	46.7	43.9	43.6	44.5 (40.0)
卸売	44.9	43.1	46.2	48.2	54.4	47.9	41.4 (40.3)
小売	46.0	48.6	51.1	48.0	49.2	48.6	38.1 (33.3)
サービス	53.7	50.4	53.4	50.2	46.2	50.0	41.7 (33.2)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年4月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

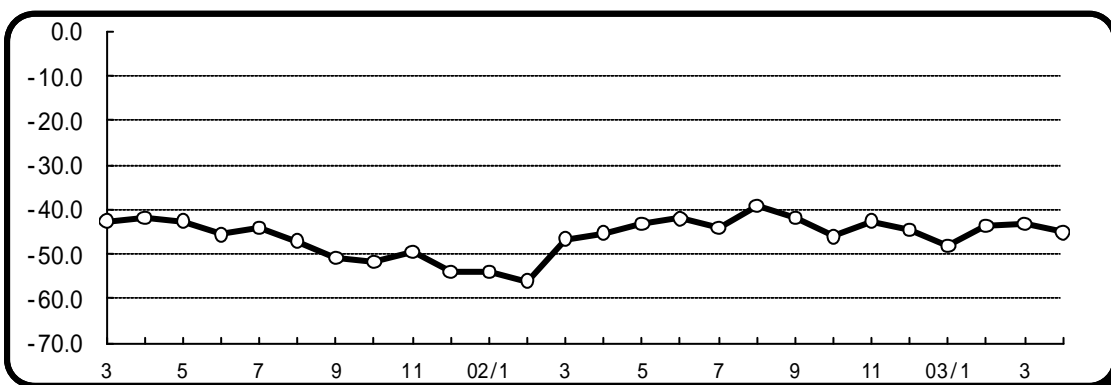
売上面では、D I値のマイナス幅は、全業種で前月水準より拡大したため、全産業合計の売上D Iは2.0ポイント拡大して45.1となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が36.3と、昨年同時期の先行き見通し(31.6)に比べて下向いている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	14年 11月	12月	15年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	42.5	44.5	48.1	43.7	43.1	45.1	36.3 (31.6)
建設	56.3	53.9	64.4	57.1	59.0	62.9	55.4 (55.4)
製造	41.2	39.7	39.7	36.8	33.3	34.4	34.8 (31.5)
卸売	37.1	38.3	42.7	41.8	45.9	46.7	30.8 (27.5)
小売	35.8	45.9	45.7	40.8	44.9	46.6	30.7 (25.9)
サービス	44.7	44.2	51.8	46.8	39.4	42.7	34.4 (24.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

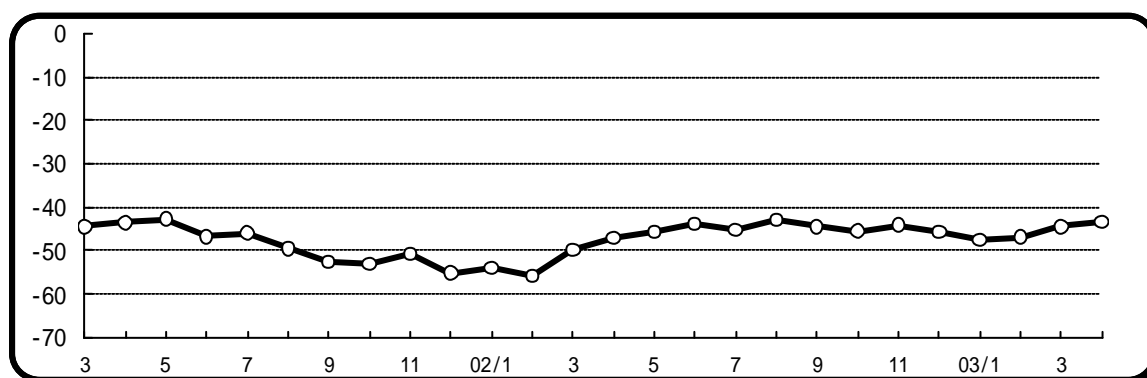
採算面では、D I値のマイナス幅は、小売で前月水準より拡大し、サービスで横ばいとなったが、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D Iは1.0ポイント縮小して 43.5となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が 37.3で、昨年同時期の先行き見通し(35.7)と比べて下向いている。

採算D I (前年同月比)の推移

	14年 11月	12月	15年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	44.2	45.7	47.6	46.9	44.5	43.5	37.3 (35.7)
建設	61.3	61.9	61.6	63.4	61.9	58.3	56.7 (55.4)
製造	46.3	48.9	47.6	46.3	42.5	39.5	38.4 (40.7)
卸売	37.1	35.3	34.5	40.0	45.0	39.6	30.2 (33.8)
小売	33.9	37.1	40.7	39.7	38.5	41.3	28.5 (25.7)
サービス	45.7	46.2	52.0	48.8	42.2	42.2	37.2 (30.3)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	14年 11月	12月	15年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	35.7	35.9	37.1	38.0	37.6	36.2	32.9 (30.5)
建設	49.2	49.6	50.8	54.0	55.2	50.9	48.1 (45.6)
製造	36.9	38.4	39.8	39.6	36.6	35.5	34.1 (35.5)
卸売	31.9	27.6	28.9	31.9	31.5	34.1	29.2 (23.6)
小売	27.5	27.9	28.9	33.1	31.2	27.9	25.7 (22.1)
サービス	35.1	35.3	36.7	32.0	34.9	36.8	31.7 (27.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売、サービスを除く3業種で悪化超感が弱まったことから、全産業合計のD Iも2カ月連続で悪化超感が若干弱まる。

【先行き見通しD I】製造を除く4業種で昨年同時期に比べ悪化超感が強まり、全産業合計でも悪化超感が若干強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	14年 11月	12月	15年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	2.6	3.1	2.3	2.9	7.4	5.5	5.8 (0.3)
建設	6.0	3.2	1.8	0.7	2.6	2.6	4.4 (2.9)
製造	12.2	15.7	14.1	16.2	18.5	16.5	14.8 (6.6)
卸売	2.4	2.4	2.9	0.0	11.9	1.2	3.0 (5.0)
小売	3.0	5.1	4.6	7.4	1.6	1.2	0.6 (5.7)
サービス	7.0	6.0	3.0	5.0	8.2	5.4	4.7 (1.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設で横ばいとなり、小売で上昇超感が若干強まったが、他の3業種で弱まり、全産業合計では上昇超感が3カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ上昇超感が強まり、全産業合計でも上昇超感強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	14年 11月	12月	15年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	15.8	15.5	15.3	16.0	16.7	14.8	14.2 (14.9)
建設	35.7	33.0	31.9	35.3	36.4	33.2	31.4 (31.6)
製造	21.6	20.9	20.9	20.7	18.0	19.4	17.6 (21.2)
卸売	15.0	16.2	14.0	16.5	21.9	13.6	10.7 (16.3)
小売	4.2	4.2	5.8	6.7	6.6	5.1	8.1 (5.8)
サービス	10.1	11.4	10.0	9.5	12.2	9.6	7.6 (6.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】製造を除く 4 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも 3 カ月ぶりに過剰超感が若干弱まる。

【先行き見通し D I】小売、サービスを除く 3 業種で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業合計でも過剰超感が若干弱まる見通し。

【平成15年4月の景気キーワード】

先行き閉塞感

歯止めのかからないデフレ傾向から、景況の現状と先行きへの閉塞感を訴える声が寄せられている。建設からは、「新年度の管内公共工事費は、国・道とも、前年度比10%以上減少しており、受注競争がさらに激化」(函館・土木工事)、「民間設備投資も前年より減少傾向」(七尾・一般工事)、製造からは「工場の操業は高水準を維持しているが、コストダウンの要請は一段と厳しくなっている」(松任・金属加工機械)との声や、「空洞化、価格競争が一段と激化しており、生き残りをかけた最終的的局面を迎えている感じがする」(日立・民生用電気機械)といった声があがっている。卸売・小売・サービスからは、「景気低迷の中での安定で、動きが無い」(小野・その他卸)、「新品の購入者が減り、服の裾やサイズ直しなどの修復をして使う客が増えており、直しサービスで客を呼ぶ店も出てきた」(伊那・商店街)、「イラク戦争、株価低迷などにより消費者の購買ムードが落ちている」(山形・百貨店)、「月の前半は売上前年比増でも、後半で息切れし前年割れとなる傾向が最近続いており、消費者の可処分所得の減少によると思われる」(帯広・百貨店)、「給与減、社会保障費の負担増、株安などにより不要不急の商品には金が回らなくなっている」(京都・百貨店)、「個人消費回復の見込みはなく、観光・サービス業などの、余暇と余剰がマーケットとなる業種にとっては大変厳しい状況」(館山・旅館)、「不況感が日々深まり、業界として多少諦めの感」(熊本・食堂、レストラン)といった声が寄せられている。

イラク戦争・SARS

各業種から、イラク戦争の余波と、SARS発生の影響を訴える声が寄せられており、「イラク戦争勃発後、消費者が一段と生活防衛に走っている」(福井・百貨店)、「イラク問題発生後、修学旅行や団体旅行のキャンセルが発生し、以後稼働率、売上とも減少傾向が続いている」(那覇・旅館)、「イラク戦争に続くSARS発生で国内旅行増加の予測も、不況が相変わらずで上向き気配感じられず」(松江・旅館)、「イラク戦争、SARSの影響で、国際会議が延期・中止となるなどの影響が出ている」(名古屋・その他事業サービス)、「イラク戦争を受けての新年度入りであることに加え、SARSによるアジア経済への影響が懸念される」(千葉・一般産業用機械製造)、「SARS問題で中国への出張が制限され、今後の商談の進ちょくに支障をきたしている」(大阪・繊維機械製造)、「中国加工水産品について、SARSの影響が出てくるのではないかと危惧している」(銚子・水産食料品製造)、「地域経済の柱である観光が、SARSの影響でアジアからのツアー客が減ることで、遠からず個人消費に影響が出ると予想する」(札幌・百貨店)、「旅行業界の不振に伴い広告関連の受注が無い」(伊那・印刷業)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
15年	2月	先行き悲観	仕入れコスト上昇	資金繰り不安
	3月	イラク戦争	仕入れコスト上昇	
	4月	先行き閉塞感	イラク戦争・SARS	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況D Iは2カ月ぶりに、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続で拡大した。「4月からの公共工事の入札予定はまったく不明で、手持ち工事がある事業所以外、業界存亡の危機と感じている事業者が多い」(一般工事)、「公共工事、民間工事とも、受注量の不足、過当競争の激化により予断を許さない状況」(一般工事)と、公共工事減少の影響を訴える声が多く、また、「新築工事よりも既存建物の増改築工事が最近増えてきた」(一般工事)、「住宅のリフォームが増えているが電気工事はその一部のため工事金額が上がらないことから、個人を対象に組合でキャンペーンを行っている」(電気工事)、「受注量に片寄りが見られ、好不調がはっきり分かれている」(一般工事)といった声も寄せられている。</p>
製 造	<p>業況D Iは3カ月連続、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは6カ月ぶりに拡大した。「携帯電話、DVD、自動車関係が好調で、携帯・PHS用部品は増産傾向にある」(電気機器)、「中国向け繊維機械の輸出が好調」(その他金属製品)といった声があるものの、「仲間仕事と技術力で何とか乗り切っているが、散発的で短納期のものが多く、従業員の整理も限界」(金属加工機械)との声や、「スクラップなどの主原料が値上げされたまま高止まりしており、副資材も4月から値上げの見込みの一方、メーカーは値下げを要求しており採算が取れない」(鉄素形素材)と、引き続き仕入れコスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況D Iは4カ月ぶりに、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続で拡大した。「野菜はキロ単価が上昇し売上増」(農畜産水産物)との指摘がある一方、「各業種とも依然売上不振のところが大半で、前年並み確保ができれば良い方」(各種商品)、「なかなか悪い状況から抜け出せない状態が続いている」(衣服、日用品)といった声が寄せられている。また、「低公害車への減税措置が3月で一部打ち切られたため駆け込み需要が発生し、4月はその反動で乗用車・RV車とも販売減」(自動車)といったコメントも寄せられている。</p>
小 売	<p>業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小したが、売上D Iは2カ月連続で拡大し、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「消費低迷下にもかかわらず、新商品などには購買意欲が刺激されるのか、動きがある」との声や、「百貨店」(百貨店)、「軽自動車、小型車を中心に売上好調」(自動車)といった声があるものの、「集客はほぼ前年並みだが売上に結びつかず、同業種でも各個店で差がある」(商店街)、「長引く不況下で消費者の財布の紐は固く、大型量販店、近隣地域との競争で厳しい状況に置かれている」(商店街)と、引き続き単価下落、消費低迷との声が寄せられている。また、「食料品は去年のBSE、食品不祥事問題に比べると売上増加している」(百貨店)、「連休中の食料品、玩具などの売上増に期待」(百貨店)といったコメントも寄せられている。</p>
サービス	<p>業況、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは前月と横ばいとなった。「イラク戦争で国内旅行へのシフトを期待したが予想に反し伸びず、予約も最悪」(旅館)、「今年のゴールデンウィークは大型連休でなく分散型なので、予約状況は低調」(旅館)、「花見シーズンでも仕出し弁当の注文が非常に少ない」(食堂、レストラン)、「一人当たりの売上が2～3割下がっているため、仕事量増加しているが、売上は変わらない」(食堂、レストラン)と、行楽、宴会需要の低迷、単価下落を訴える声が寄せられている。また、「倉庫引合い減少により、売上の先行き見通しも暗い」(その他サービス)、「4月は契約更新が多く、3月までの販売価格では契約できないところが目立つ」(ソフトウェア)といったコメントも寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況DI(前年同月比ベース)をみると、北海道、北陸信越、関東、四国の4ブロックでマイナス幅が縮小し、東北は前月と横ばい、他の4ブロックでは拡大し、全ブロック合計でも横ばいとなった。

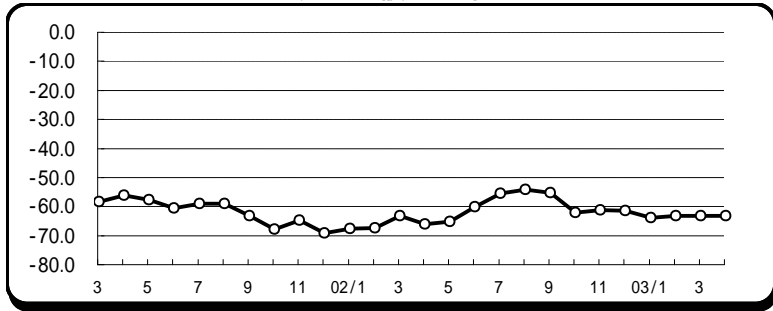
ブロック別の向こう3カ月(5月~7月)の業況の先行き見通しは、東北を除く8ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ下向いており、全ブロック合計でも下向いている。

ブロック別・全産業業況DI(前年同月比)の推移

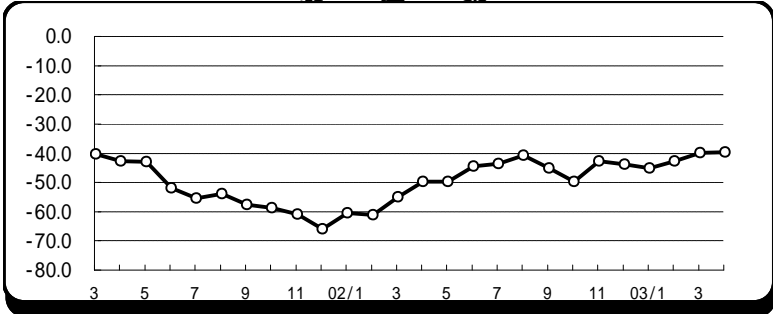
	14年 11月	12月	15年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全国	50.4	50.5	52.8	50.7	50.1	50.1	44.6 (39.1)
北海道	50.8	51.1	55.7	44.4	46.2	44.3	38.6 (38.2)
東北	54.0	46.0	52.6	55.2	54.7	54.7	47.1 (47.9)
北陸信越	45.4	46.5	51.3	51.1	49.2	47.3	38.0 (33.2)
関東	51.1	52.9	54.5	50.0	54.7	50.9	42.4 (34.5)
東海	51.2	49.7	45.5	41.4	43.6	45.4	45.4 (41.9)
近畿	53.3	52.2	54.3	53.7	49.6	50.9	45.4 (41.3)
中国	50.6	45.3	50.3	52.7	48.7	56.8	51.7 (37.3)
四国	55.0	62.6	65.5	58.2	56.6	45.9	52.3 (50.4)
九州	41.5	47.5	48.1	50.3	43.3	51.1	46.3 (37.6)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

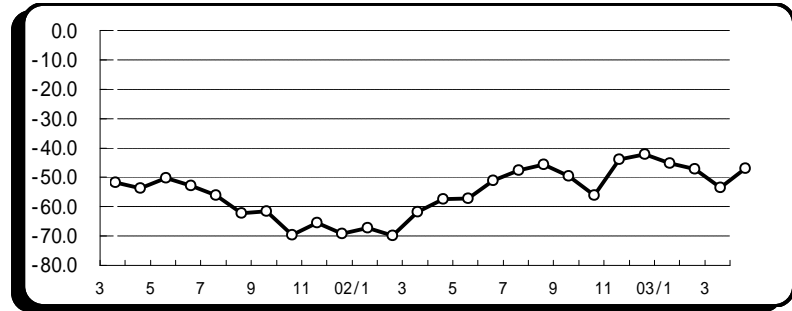
建設業



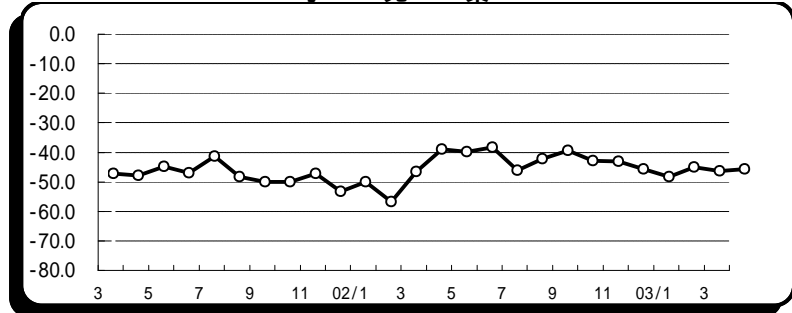
製造業



卸売業



小売業



サービス業

